

第3学年 道徳科学習指導案

令和2年12月24日（木）2校時

豊見城市立豊崎小学校 3年1組35名

授業者

共同研究者

1 主題名 「みんなの使う物」 【内容項目：C-12 規則の尊重】

2 ねらい

みんなが使う物は便利で有難いものであるが、自分勝手な使い方をすると周りの人に迷惑をかけることからきまりの良さについて理解し、大切に使いつこうとする態度を育てる。

3 教材名 「黄色いかさ」 （出典：『新訂 新しいどうとく3』）

4 学習指導要領の内容を押さえた道徳的価値

学習指導要領には、内容項目【C主として集団や社会との関わりに関すること】の【12規則の尊重】について学年段階ごとに次のように示されている。

第1学年及び 第2学年	第3学年及び 第4学年	第5学年及び 第6学年	中学校
約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすること。	約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること。	法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと。	[遵法精神、公德心] 法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切にし、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること。

指導内容は、C 「主として集団や社会との関わりに関すること」の(12)「約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること。」である。

人と人との仲間をつくり、よりよい人間関係を形成する上では、自分の思いのままに行動するのではなく、集団や社会のために自分が何をすればよいのか、また、自分に何ができるのか、自他の権利を十分に尊重する中で果たすべき自らの義務を考え、進んで約束やきまりを守って行動する態度を養うことが必要である。

5 道徳的価値に関するこれまでの指導の成果と課題を踏まえた児童観

これまでの道徳授業では、発問やゆさぶりを工夫し構造的板書を取り入れることで、子どもたちの考えを深めさせようと意識して取り組んできた。そのため、道徳の授業を楽しんで意欲的に参加する子が増えた。しかし、教師の問いかけに対して数名の子のみが反応し、個々に発言するといったやり

とりが多く、学級のみみんなで考えを深めるような話し合いの持ち方に課題が残る。そこで今回、個々の考えを伝え合うような話し合いで終わることがないようにグルーptークの際に視点を与え、本時のまとめ(学び)につながる「キーワード見つけ」を手立ての工夫として取り入れた。

「きまり」に関するアンケート調査から、本学級の児童は、ルールやきまりはわたしたちにとって必要なものと感じており、学校や学級のきまりを守れていると感じている子が96%と多いことが分かった。特に、廊下は静かに右側歩行、ベル着や授業の準備等の時間を守ること、トイレスリ並べ等の学校や学級のきまりを守れている子は多く、友達に注意されるとすぐに行動を改めることもできる。

きまりの意義については、「けがをしないため」「安心安全に過ごすため」「いじめのない学校にするため」「気持ちよく過ごすため」等を挙げており、生活安全面や友達関係に目を向けたきまりの良さや必要性はそれぞれ感じている。しかし、児童にとってきまりを守ることは当たり前のことだと考えており、「守れていない人は、なぜ守れないのか」の問いに対し、「注意を聞けないから」「先生がいない時にふざけているから」「自分勝手に行動しているから」等、先生の言うことを聞くことがきまりを守ることに繋がると考えている様子がかがえる。つまり、先生との約束事という外発的動機づけが強く、自分たちの生活にとって必要だからきまりを守ろうという自発的な意欲が弱いと考える。

さらに、「きまりを守らないとどうなるのか」という質問に対し、「けがをする、けがをさせる」「けんかが起きる」「先生に怒られる」等、子どもたちにとっての身近な学校生活に限定されているため公共物や公共施設等にも視野を広げ、グルーptークで自他の考えの良さや違いを見つけながら、公共のきまりを守らないとどうなるか、誰にどんな迷惑をかけるのかというように具体的なイメージを持ちながら、きまりの意義、きまりを守ることの良さまでつなげて考えを深めさせたい。

6 道徳的価値や児童観に基づいた教材観

駅の改札口に置いてある「誰でも自由に使える黄色い傘」は、誰でも困った時に使うことができる便利な物である。主人公の大助も突然の雨で困った時に、傘を借りたので濡れずに済むことができた経験がある。しかし、傘を借りた人の中には心ない人たちもいて、返されないままになっている傘もあり、大助もその一人であった。返さなければいけないと分かりつつもできない人間の弱さに目を向け、返さなければどうなるのか、誰にどんな迷惑をかけることになるのかということをつっこんで考えさせることで、きまりの意義や大切さについて追求したい。さらに、本資料では、おばあさんの困る姿を見て、自分の行為を反省するという場面から、公共物や公共の場を利用する際にはどんなことに気をつけ、どんなきまりやマナーが必要だろうかと考えることを通して、自分にも出来そう、できることからやってみようという自発的な意欲及びこれからの態度の育成につなげていきたい。

7 校内研究テーマに向けた指導の工夫

共に学び合い、自己を表現できる子どもの育成
～学習評価の視点から考える発問の工夫～

《学び合い学習》

- 一人一人の考えを深めるために、個人や学級全体で話し合いを行う
- グルーptークや学級全体の話し合いを通して、多様な考えに出会い、多面的・多角的に考える
- グルーptークで話し合う際に、本時のキーワードを見つけるという視点を与える

《自己を表現できる子どもの育成》

- グループトークを通して、少人数の中で自分の意見を言いやすい雰囲気づくりをする
- グループトークのリーダーを決め、話し合いがスムーズに進められるようにする
- ノートのフリースペースを活用し、自分の考えを自由に表せるようにする

《学習評価の視点》

- 学習の深まり：きまりの意義について授業前後の考えを比較することで、本時の学びを実感させ、きまりを守らないと誰にどんな迷惑がかかるのかに目を向け、きまりの必要性や意義について考えを深めさせる
- 多面的・多角的見方：人間の弱さからきまりを守れずにいた主人公が、困っている人の様子を見て自分の様々な改善点に気づいたり、傘を用意した人や傘を使って喜んだ人たちの様々な思いを考えたりしながら、自分勝手な行動を改め、きまりを守ることの良さや公共物の扱い方のきまり・マナーなどに目を向けさせる
- 自分事としての捉え：アンケートの結果を適宜取り入れながら、主人公の姿に自分の姿を重ねて考えさせ、人間的な弱さを乗り越えて自発的にきまりを守ろうとする意欲を引き出し、今後の行動につなげていけるよう問いかけやゆさぶりを工夫する

《発問の工夫》

- 導入、終末の問い → 「きまりは何のためにある？」と問いを揃えることで、本時の学びを児童にも実感させる
- 中心発問 → 「大助は走りながら、どんなことを考えたでしょう」と問うことで、自分の弱さに気づき、それを乗り越えようとする主人公と自分を重ね合わせながら、きまりを守ることの良さを具体的にイメージし、児童の自発的な意欲を引き出す
- ゆさぶり → 中心場面やそこに至るまでに、ごまかそうとする大助や傘を準備した人の気持ち、自分ならどうするだろうかを考えさせることで、自我関与しながらきまりを守れる良さについて思考を深めさせる。

8 本時の展開

	学習活動	○主な発問 ◎中心発問・予想される反応 ●ゆさぶり	◇指導上の留意点 ■評価の観点
導入 7分	1 社会見学での経験から、みんなが使う物のきまりについて自分の考えを持つ。	○社会見学で公園に行った時、どう思った。 ・トイレが臭かった ・ゴミはきれいに片づけられていた ○みんなが使う場所や物には、どんなものがある？ ・学校 ・公園(トイレ・遊具) ○きまりは何のため？	◇社会見学時の体験を想起させ、具体的なイメージを持って公共物や公共の場へ目を向けさせる。 ◇学校のみならず公共物や公共の場へ視野を広げる。 ◇事前アンケートの結果を示し、学級の実態も合わ

		<ul style="list-style-type: none"> ・けがをしないように ・けんかをしないように 	<p>せながら価値の方向づけを図る。</p>
展開 28分	<p>2 資料「黄色いかさ」を読んで、公共物や公共の場の使い方について考える。</p> <p>☆個人で考える</p> <p>☆他の考えも取り入れられるように、グループトークをする</p> <p>☆全体で話し合いながら、出てきた考えを整</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○黄色いかさとは、どんなかさですか？ ・困っている人は誰でも借りていい。 ・とっても便利 ・助かる <ul style="list-style-type: none"> ○大助だけが一本借りたのはなぜですか？ ・二人とも借りたら、他に困っている人が借りられなくなるから。 ・二人で一つ使えばいいと思ったから。 <ul style="list-style-type: none"> ○傘を借りて喜んだ大助なのに、すぐに返さなかった大助のダメなところは？ ・面倒くさいと思ったところ ・自分の物ではないから次でいいや ・一人くらい返さなくても大丈夫だろう ・お父さんにごまかした ●お父さんに「なんでもないよ。」とごまかしたのはなぜ？ ●誰が借りたか分かるようにしたり、罰があったりしたらどうしていただろう？ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◎大助は、走りながらどんなことに気づきましたか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・すぐに返しておけばよかった ・僕のせいだ ・僕だけいい思いをして自分勝手だ ・ほかにも困っている人がたくさんいるんだ ・自分の知らないところで自分がやったことで困っている人がいる ●改札口のかさは、誰がどんな思いで準備しているんだろうね？ ・誰かが知らない人のために置いている ・困っている人に使ってほしい ・みんなが便利に使えるようにしたい 	<ul style="list-style-type: none"> ◇お話の内容や登場人物の心情、行動について視覚的に分かりやすく関係図にまとめる。 ◇黄色いかさは、誰でも使える便利な物であることを押さえ、当たり前ではなくありがたく使うことの大切さを確認する。 ◇大助の言動を通して、人間なら誰しもやっしまいがちな行為の根底にある人間の弱い部分の考えにも目を向ける。 ◇賞罰で動いてしまう人間的な弱さにも触れ、自分の保身や考えの浅さを乗り越える強さや大切さに気づかせたい。 ◇自分が知らないうちに誰かを困らせていることに気づき、悪いことをしたと反省する姿と自分を重ね合わせて考えさせる。 ■学習の深まり（きまりを守ることの良さについて考えている） ◇傘を準備した人の気持ちも考えることで、相手意識を持って物の使い方にも目を向けさせる。 ■多角的思考（きまりを守

	<p>理する</p>	<p>○みんなが借りる時に、どんなきまりが必要ですか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困っている人や傘を準備してくれた人の気持ちを考える。 ・物を大切に使う。 <p>○次に大助はどうすると思う？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学んだから、ちゃんと返すと思う。 ・みんなのことを考えて行動できると思う <p>●あなたなら、どうする？</p> <p>大助みたいに、できるかな？</p>	<p>ることの良さを様々な方向から考えている)</p> <p>◇公共物や公共施設を使う時のきまりやマナーを考えさせ、本時の学びとリンクさせる。</p> <p>◇今後の大助がどんな行動をとるか想像することで、自分にもできそう、できることからやってみたいと思えるように自発的な意欲を引き出したい</p> <p>■自分事の捉え（公共物を大切に使うという思いや考えをもっている）</p>
<p>終末10分</p>	<p>3 学習のまとめやふり返りをする</p>	<p>○今日の学習で大切なキーワードは何ですか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感謝 ・思いやり ・物を大切に ・責任を持つ ・自分勝手にしない 	<p>◇自他の考えの良さや違いに目を向けさせ、みんなが納得したよりよい考えをキーワードとして見つけさせ、児童にも本時の学びを実感させる</p>

(3) 評価の視点

○公共物は、自分勝手な使い方をすると周りの人にどんな迷惑をかけるか理解し、きまりを守ることの良さについて理解することができたか。【観察・発言・ノート】(学習の深まり)

○公共物や公共の場を大切に使うことの良さについて、考えや思いを深めたか。

【観察・発言・ノート】(自分事の捉え)

(4) 板書計画

